

HSK

なんれん

とから

No37

昭和48年1月13日

第三種郵便物認可
HSK通巻第 360 号
2002年 3月10日発行

毎月10日発行 (一部100円)

(会費・協力会費に含まれています)

編集 (財)北海道難病連十勝支部

発行 北海道身体障害者団体
定期刊行物協会 (HSK)

2001年度の終わりに
道東地区支部役員研修会
十勝支部新年会に参加して
部会便り-小鳩会
レクレーションに参加して
『看護師』に
ふれあいデジタル工房から
JPC国会請願署名終了
十勝支部募金箱設置名簿
パソコン教室
事務局からのお知らせ

(財)北海道難病連十勝支部

2001年度の終わりに

支部長 山崎 富士夫

2001年度の終わりに当たり、難病連十勝支部の活動の事や、連絡事項、お願いなどについて申し上げます。

先ずはじめに、十勝地区の各患者会の部会の皆さんの、十勝支部への支援、協力に感謝します。部会は、現在準備中の部会も含めて、11部会があります。所属する会員の総数は750名余りです。患者会としての日常的な活動は、部会の活動が主ですから、十勝支部のことについては、あまり必要感を感じていない方もいらっしゃると思います。しかし各部会の全道組織を通して、北海道難病連につながっています。

私達、患者とその家族は、日常的に、抱えている病気と戦ったり、付き合ったりしていますが、いつも、国の難病対策や健康保健法に左右されています。個人々々では、とても弱い立場です。連帯して私達のおかれている実情と願いを行政に関わっている立場の方々に伝えていく必要があります。その意味で北海道難病連の存在は大きいと思います。

北海道難病連の下部組織である、十勝支部では、各部会から選出されている役員で活動をしています。活動資金も厳しい状況にあります。国及び道の予算の削減で、本部への補助金も少なくなっています。当然、支部への活動費助成も減額されています。私達は、募金をお願いしたり、バザーをしたりしています。そのような状況で、今年度からは、各部会への助成金をお渡しすることが出来なくなりました。どうか、ご理解を頂きたくお願い申し上げます。

「医療制度改革」に反対する、3・28全国患者・家族大集会在開催されます。今、難病連では、この集会に向けて大きな取り組みをしています。詳しくは、会報で知らされると思います。北海道難病連のホームページ難病対策の見直しなど重要な情報を速報しています。 <http://www.tokeidai.co.jp/h-nanren/> です。

また、新しい年度が始まります。十勝支部は、派手なことは出来ませんが、活動の火を絶やさないで継続して行きます。相談のある方は、電話を下さい。私共で分からない事は本部に連絡をします。新年度の全道大会は、釧路で開催されます。支部では福祉バスを予約しています。後日、参加者を募ります。

支部では、共同作業所を開いています。パソコン教室です。障害者手帖をお持ちの方を対象にしています。無料です。興味のある方は、0155-23-6699に電話下さい。

今後とも、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

道東地区支部役員研修会報告 (1月19・20日)

十勝・釧路・根室の館内には・九つの支部があります。毎年、本部の指導で役員の研修会をしています。会場は毎年持ち回りになっています。今年は、阿寒支部が担当で、阿寒の本町の「サークルハウス赤いベレー」が会場でした。支部からは、山崎・成田・加藤（富）・早川の4名が出席しました。

第1日は13時30分から開会式が行われ、来賓の阿寒町助役の水野氏・同町社協の吉田の両氏から挨拶がありました。早速研修に入り、「介護保険の利用の仕方」と題して阿寒町社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所の介護支援専門員の武田敦氏から講話がありました。いわゆる、ケアマネージャーの立場で、一人の方の事例にそって、発病の状況から相談の経過、現在の状況など具体的に紹介されました。脊髄小脳変性症の患者さんが、何が出来て、どんな介護を必要として、家族ができることと、できないことは何かなど、綿密に相談をして・病院や施設をどのように利用するか週単位で計画をたてて行った様子を紹介されました。更に、体験発表では、その家族の方から、介護を受けている立場で話されました。だんだん症状が重くなっていった経過と、介護の様子がよく分かるお話でした。両者の信頼関係が非常に大切だと感じました。

その後、懇親会では、本部の事務局長の伊藤たてお氏から、他府県の患者会の活動について紹介がありました。また、各支部の紹介などで交流を深めました。

以上報告 山崎 富士夫

久し振りに研修会に参加しました

一日目は介護保険の事例に基づいて発表及び利用の仕方についての勉強でした。まだまだ、良くわからずでした。

二日目は講師伊藤たてお事務局長による「難病対策の見直しについて」資料を参考に勉強会。難しいのと、時間があまりないので要点のみで、あとは、資料を良く読む事で終わりました。やはり・為になる研修会で、参加して良かったです。

日本二分脊椎症協会 加藤 富江

新年会に出席して

今年の1月29日にデジタル工房の新年会があり、私は初めて出席させていただきました。

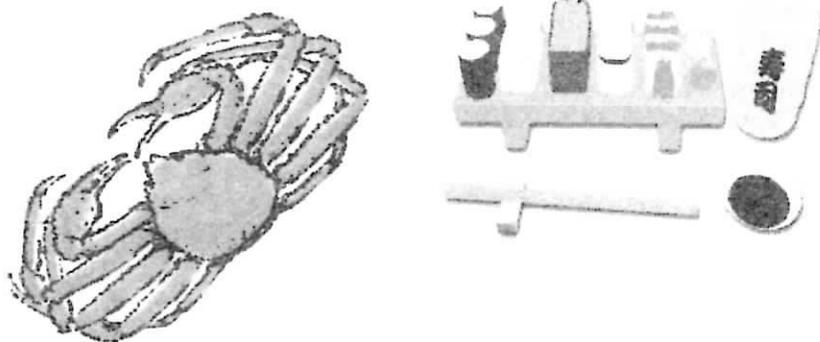
寿司正で行われた新年会は、和やかな談笑の場となり、私も楽しませていただきました。

みなさんの顔も普段より生き生きして見えました。そこでは、みなさんが同じ目の高さでした。だからこそ、楽しい時を過ごせたのでしょう。みなさんが同じ病気の方々ばかりではありませんから、何もかも、分りあえるとは思えません。でも、多少でも他人の側にたって考えられる気持ちは忘れたくないものです。

新年会の光景には、みなさんのそんなわずかだけど重要な思いやりが、私には見えた様な気がします。

大切な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

これからもよろしく願いいたします。



田口 真矢

食後のデザート

支部長 山崎様 みかん

デジタル工房 田口、氏原様 お菓子

ありがとうございました

事務局より

部会便り—小鳩会

帯広市 広瀬 真澄 (南美 9. 1. 17)

会員の皆さんお元気ですか？去年「福岡へ行ってきました」と登場しました、帯広の広瀬南美・5才です。たくさんの方々に御心配をかけたのに報告が遅くなり大変申し訳なく思っています。最近やっと落ち着きペンを取る事ができました。

千歳空港より出発、南美の体調を考え福岡に直行です。

3年生の息子に「お母さん南美を助けてね」と言われ「まかしとけー！！」とガッツポーズ。

福岡はすっかり春いや夏の様で、北国生まれの私達母子は気候に慣れるのにすごく苦労しました。(これは最後までかかりました)

南美は「福岡こども病院・心臓外科病棟」に入院。たくさんのお友達の仲間入りです。

手術は長くかかりました。彼女の生命力を信じ続けた4年間でしたので、大丈夫だという強い気持ちと負けそうな自分との戦いでもありました。

先生から「遠くから来たかいがあり ましたネ」と言われた時、初めて涙が出ました。

(本当を言うと実は腰がぬけていたのです。これは後で笑い話です)

術後の治療でなかなか思う様に回復していかない南美でした。また、まだ言葉が出ていない頃でしたのでコミュニケーションを上手にとる事ができず「次は何？」という不安感でずいぶんストレスを感じている様子でしたが、先生・看護婦さんに助けられ可愛がられ消えていた南美の笑顔がだんだん戻ってきた時はホッとしました。



ほとんど言葉が出ていなかったのですが「イヤ、イタイ、ダメ」だけははっきり話す様になりこれは親としてニガ笑いです。

いろいろな所から病気と闘っている子供達がたくさん入院しています。ダウン症の子供達もいます。みんなガマン強く、本当に強いそしてとても優しい子供達。先生も看護婦さんもみんな感心しています。

子供達からお母さん達からたくさんパワーを南美に私に与えてもらいました。看病のあい間の語らいもつらい入院生活を和らげる一つになりました。そしてたくさんのお友達もできました。娘が与えてくれた多くの友人は私の宝でもあります。

本当につらい手術・治療によく耐えがんばってくれました。この大きな手術で彼女の未来は明るくてらされていると私達家族は信じています。

まだまだ帯広、札幌、福岡と三つの病院にお世話にならなくてはなりません。「大丈夫、南美なら」と思っている今日この頃です。

最近の南美は元気にたくましく相変わらずがんばり屋でひょうきん娘、ついでにマイベース。念願の保育所にも少しずつ通っています。先生が大・大スキで毎日ニコニコ笑顔いっぱいです。

彼女の成長を見ながら彼女の笑顔を見つめながら家族で支えて行こうと思っています。

本当にたくさんの方々を支えられました。帯広分会の仲間達には大きなパワーを与えてもらいました。このパワーを私なりに返していきたいと思っています。

帯広分会の広瀬さんが寄稿された手記を許可を得て転載しました。

HSK—こぼと 136 号— 2002. 2. 10. 発行— (小嶋会 山崎)

難病連十勝支部 レクリエーションに参加して

竹中美津子

10月7日(日曜日)いろいろな病と戦っておられる、皆様との交流会が、十勝川温泉かんぼの宿にて日帰りで行われました。ボランティアの方々に手助けを受けまして、不自由な体の人も入浴させて頂き有難うございました。難病連の係り成田さんの進行でビンゴゲームなどでたくさんの景品を頂き、並べられたご馳走を頂き、満腹。全員の記念写真をパチリ。

短い時間でしたが楽しく過ごし別れを惜しんで、それぞれに家路につきました。

つかの間でも楽しく過ごすことが出来たことは、とても嬉しかったです。

リウマチは体中の関節が痛み、そして微熱・膝の関節は歩くときや曲げるときなどの痛みは、強烈なくらい気絶しそうに辛く苦しいので(夫も病弱の為に)やもえず人工関節の手術をしました。

今、ようやく痛みから逃れることが出来ました。一時はどうしようか涙・涙の私でした。何年もの間、痛み苦しみました。今は、これがリウマチなのと思ってしまうほどの明るさになりました。

お風呂の中では、リウマチ仲間三人で膝の人工関節手術のあとを見せて「私たち傷つき者」なのとシャレを言う。大きい傷・小さい傷・生々しい傷を他の病の人達に見せて、爆笑したりと、来て良かったと思った瞬間でした。

※ デジタル工房にてパソコン受講致しました。お蔭様で文字を打つことが出来、キーボードをたたく指先は、ボケ防止になると楽しんでます。インストラクターの先生・難病連の皆様有難うございます。

今後とも宜しくお願いいたします。

看護婦も

『看護師』に

看護師も

三月一日から、「看護婦」「看護師」という名称が法律上「看護師」に統一される。これに伴い「看護婦長」も「看護師長」などに切り替える病院もある。患者が慣れ親しんだ呼び方を変えるには、時間がかかりそうだが、名称統一を機に「男性看護師が増えてほしい」という期待も医療現場にはあるようです。

腰痛や糖尿病で定期通院している札幌市西区の斉藤一矢さん（50）は「女の人にしゅう恥心があるように、男にもある。男の看護師に特に頼みたいこともあるし、相談ごとなどでも男だから言いやすいこともある」という。道によると二〇〇〇年末現在、道内で働く看護婦・士・准看護婦・士・保健婦・士・合わせて約六万二千人のうち、男性は約二千百人で 3.1%。この割合は年々、大きくなっている。今回、准看護婦・士も「准看護師」、保健婦・士も「保健師」になる。助産婦は女性だけに限られているが「助産師」に改称される。

札幌市立高等看護学院の須田恭子副学院長は以前、救命救急現場に勤めた経験から「交通事故で重傷を負って運ばれてくるのは若い男性が多く、彼らの精神的な支えとしても男性看護師の果たす役割は非常に大きい」と語る。

ただ、導入が論議されている男性助産師については、女性の抵抗感が強い。二人を出産している札幌市北区の梶谷幸子さん（46）は、「産科の先生もできれば女の先生がいい。助産婦もやはり女性がいい。」という。「女性の役割という考え方が強い看護やケアへ、男性の参加を促す追い風になってほしい」。市立札幌病院消化器科副看護長の角谷英幸さん（38）は、名称統一が意識を変えるきっかけになることを願っている。子供のころ、友達が入院していた病院でお兄さんの役割を果たしていた看護士を見て、「男性でないといけないケアもあるのでは」と看護の道を志した。男性患者からは、尿道への管の挿入などで指名を受ける。病棟にはがん患者が多いため、一家の大黒柱として弱音を見せまいとする男性から「あんた男だから分かると思うけど・・・」と話しかけられ、精神面の支え役を果たすことも。ただ、患者の体をふくときは、女性なら年配であっても「ぼくでもいいですか」と尋ね、患者が選ぶ権利に配慮をしている。今春、札幌市立高等看護学院を卒業する久保寛之さん（30）は、「実習中、五十代の男の患者に「若い女性の方がよかったな」と言われたこともありましてと笑うが、男性であることにこだわりも悩みもない。卒業生四十三人のうち男性は久保さん一人。就職を前に「病人の生の声を受け止め、その人が頑張ろうと思えるよう支援できたら」と希望している。

（十勝毎日新聞掲載文より）

デジタル工房現状報告

デジタル工房の西原です。現在のデジタル工房の現状報告します。

今、デジタル工房には、登録者数帯広市在住25名 近隣町村13名 計38名と昨年度末より10名以上増えました。毎日来る人数も増えとてもにぎやかです。みな、楽しく勉強に、仕事に取り組んでいます。コンピューターの操作にも慣れうまく使いこなせるようになってきました。

受注は、まだ十分な量が来ていないので収入は、満足のものにはなっていませんが、これからもっと営業・宣伝などに力を入れて仕事を増やし皆でがんばっていきたくと思います。

パソコン教室は、1週間延べ人数で25名前後くらい受講されています。土曜日に集中する傾向があり、火～金曜日比較的すいています。これから受講を希望される方は、平日のほうがお勧めです。土曜日を希望される方は、早めに予約された方がよろしいかと思えます。

受講生募集

パソコンをおぼえたい方、さわってみたいという方、インターネット・メールだけやりたいという方も、まずは、お気軽にお問い合わせ下さい。

他に機関紙の作成・はがきの印刷・名刺・オリジナルTシャツ等も受け付けております。

お問合せ先 0155-23-6699 デジタル工房 まで



JPC 国会請願署名無事終了

昨年の10月から取り組んできましたJPC国会請願の署名活動を無事終了しました。

私たち難病患者や家族が、入院であれ、在宅であれ、患者の希望に応じて安心して医療を受け、生き甲斐をもって過ごすことができるよう、総合的な難病対策の早期確立を強く要望し請願するものです。

大勢の皆さんのご協力により、署名数1,993筆、募金額¥27,897が集まりました。過日、本部のほうへ郵送いたしました。

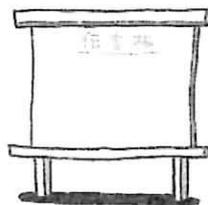
皆さんのご協力に感謝いたしますと共に、私たちの願いが1日も早く実現する事を期待しております。



ご協力ありがとうございました

今年度もバザー出店に参加しました。

会員の皆さんをはじめ一般の方々からも沢山のバザー用品を提供していただきました。売り上げ金は活動資金として有効に利用させていただきます。ご協力ありがとうございました。引き続きバザー用品の提供をよろしくお願いします。





(財) 北海道難病連十勝支部募金箱設置名簿



	NO	設置場所	住所	募金額
①	1520	十勝正直村	幕別町日新13-5	¥954
②	1003	茂古沼酒店	帯広市稲田東1線6	¥8,685
③	1086	ワインブラザ カワイ	帯広市西18条南3丁目	¥356
④	1109	珈琲屋 カゼ	帯広市東10条南10丁目	¥0
⑤	1263	ワイン城レストラン	池田町清見83	¥2,383
⑥	1445	モミの木	帯広市白樺16条東6丁目	¥2,127
⑦	1447	ダイイチ西8条店	帯広市西8条南12丁目	¥0
⑧	1519	エイトブラザアルファー	帯広市大通南8丁目5	¥3,132
⑨	1628	ロッキー大空店	帯広市大空12丁目1の1	¥563
⑩	1525	(財) 難病連十勝支部	帯広市西5条南13丁目	¥1,406
合計				¥19,606

○ 上記の場所に募金箱を設置していただき、協力をお願いしております。
○ 皆様の善意に感謝いたします。

○ ありがとうございます

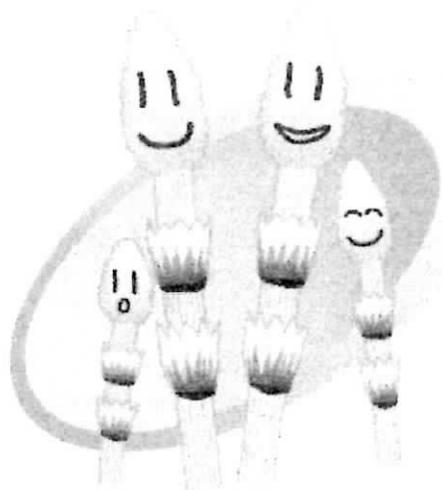
パソコン教室 ピカピカの一年生？

大道 睦子

デジタル工房にお世話になって、もう5ヶ月になろうとしています。きっかけは自宅に2台あるワープロのうち、後に買った主人のワープロが故障してしまったからです。これからはワープロを買うよりもパソコンだと思い、もし私でも何とかさわれるということがわかったら、その時は買っていいかな・・・ある時、急に予定していたことがキャンセルになってしまいました。お出かけモードにあった私はこの機会にといい、その場でデジタル工房にお電話をしてしまいました。突然だったのですが、快く(勝手に思っている?)お引き受けくださり、その日から生徒にしてもらいました。

若い人と違い、マイペースの私は呑み込みも遅く、講師の先生達にはいつも迷惑をおかけしています。やるからには身を入れてやればいいのかと思いつつも、先になかなか進まないで足踏み状態です。パソコンもやはりほしくなって購入したのですが、習ったことを家に帰って復習しようとしてもまだまだ思うようにいかないこともあります。でも何もわからなかったのに年賀状や簡単な挨拶状を印刷にまでこぎつけた時はうれしくなって、勝手に自分で自分に努力賞をあげる気分になります。筆不精でどうしても連絡しなければならぬ時は電話で済ませていた私ですが、これからははがきでも気軽に出せたらと思っています。

この世界は無限に広がっているように思え、まだまだ勉強することがたくさんありそうです。何がやりたいのか、何ができるのか、まだまだ模索中ですが、これからもお世話になります。ご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務局からのお知らせ

(財) 難病連十勝支部の拡大役員会を下記の日程で開催いたします。
各部会の難病連担当者、及び事務局の方は出席くださる様お知らせします。

記

日時；2002年5月19日(日) 午前10：00～12：00

場所：とがちプラザ 305号室

帯広市西4条南13丁目1

電話 (0155) 22-7890

お 願 い

各部会の事務局、及び難病連担当者の
異動がありましたら報告して下さい。

お手数ですが、支部事務所まで連絡お
願いします。

連絡先 電話 0155-23-6602

FAX 0155-23-7071

パソコンフリースクール

パソコンにさわって見ませんか？

ただいまデジタル工房では、
新規受講生を募集しております

初心者の方にも分かりやすく、
マンツーマンでお教えいたします

1回 2時間

障害者手帳をお持ちの方は、無料
(帯広市在住で手帳をお持ちの方は、
市の方から交通費の助成があります)
一般の方は、1000円となります

その他

ハガキ、名刺、チラシ、Tシャツ等
いろいろ印刷いたします

お気軽に下記までご連絡下さい

〒080-0015

帯広市西5条南13丁目19-2

デジタル工房

T e l (0155)23-6699

F a x (0155)23-7071

— HSKなんれなとかち37 —

第三種郵便物認可 昭和48年1月13日 2002年3月10日発行 通巻第360号

編集人 (財)北海道難病連十勝支部 支部長 山崎 富士夫
帯広市西5条南13丁目19-2 電話:0155-23-6602 fax:0155-23-7071

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川 久美子

第千三
集告百回
中掲部
載発一
行回